



株式会社大塚製薬工場

Company Profile 2025



The Best Partner in Clinical Nutrition Worldwide

The Best Partner in Clinical Nutrition Worldwide

世界中の臨床栄養領域における患者さんや医療従事者のベストパートナーを目指す

大塚製薬工場は、“The Best Partner in Clinical Nutrition Worldwide”（世界中の臨床栄養領域における患者さんや医療従事者のベストパートナーを目指す）を経営ビジョンとし、大塚グループ発祥の会社として、75年以上にわたり輸液事業に取り組み、輸液のリーディングカンパニーとして、日本の輸液開発をけん引してきました。

予防から病院医療、リハビリ、そして在宅医療・介護に貢献するソリューションを提供するため、臨床栄養領域をはじめとしたアンメットメディカルニーズに対応する医薬品や医療機器、デジタルサービス等の開発を進めており、常に患者さんの視点に立った、既成概念にとらわれない革新的な製品開発に取り組んでいます。

大塚グループの輸液は日本国内にとどまらず、アジアを中心に世界に展開しています。今後は、基礎輸液のみならず、栄養輸液や経腸栄養剤など、臨床栄養に貢献できる製品展開をグローバルに推進していきたいと考えています。また、医薬品や医療機器、メディカルフーズを世界の人々にお届けすることにも継続して挑戦していきます。

創業者である大塚武三郎氏の「流汗悟道」、二代目・大塚正士氏の「実証」、三代目・大塚明彦氏の「創造性」といった教えを継承し、これからも、安全で高品質な製品を安定的にお届けする努力を続け、革新的な製品を開発し供給してまいります。事業活動を通じ世界の人々の健康に寄与するのみならず、地球にやさしい環境経営を一層強化し、国連が推奨する持続可能な開発目標（SDGs）の達成にも貢献する価値ある企業であり続けられるよう、全社一丸となって活動してまいります。今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長
高木 修一



流汗悟道

単なる知識だけでなく
自らが汗を流し実践して
感じることの中に
本質がある



実証

物事を成し遂げ
完結することで
自己実現
そして真理に達する



創造性

真似をせず
大塚にしかできないことを
追求する

大塚グループの企業文化

大塚グループが目指す新たな価値創造実現の根幹には、「流汗悟道」「実証」「創造性」という3つの考え方があり、それらは大塚グループ全体に広く浸透し、企業文化の醸成に繋がっています。

詳細は当社コーポレートサイトの
「トップメッセージ」ページへ



医療に貢献する革新的な製品の創出を目指して

「基礎的医薬品」である輸液のリーディングカンパニーとして



大塚製薬工場の主力製品である輸液とは、いわゆる点滴液のことで、生命を維持するために基礎的かつ重要な医薬品であり、医療にとって必要不可欠な存在です。現在、輸液の国内市場において過半数のシェアを占める^{*}当社は、75年以上にわたり輸液事業に取り組み、輸液のリーディングカンパニーとして、日本の輸液開発をけん引してきました。

輸液は「基礎的医薬品」（臨床上の必要性が高く将来にわたり継続的に製造販売することが求められている医薬品）の一つであり、私たちには基礎的医薬品メーカーとして高い品質の維持と安定供給が求められています。

※出所：自社定義による市場 Copyright©2025 IQVIA.
JPM2024年12月MATをもとに作成 無断転載禁止

輸液の生産量（日本）



約 124 万本/日

製造している輸液の種類（日本）



119 種類

安全性と品質の徹底追求



創業以来受け継がれてきた品質第一の精神

「品質は工場の生命にして包装も亦品質なり買う身になりて造れ賣れ」^{また}。

この書は、「おやじさん」として社員に親しまれ、大塚月峰という雅号を持つ書の大家でもあった創業者・大塚武三郎（1891～1970年）がしたためた社訓です。1946年、注射薬の製造販売を開始するにあたり、「製造・運送・販売に従事する人々の必ず実行すべき事柄である」と社員に示したもので、この社訓は、今も当社の正面玄関や各工場に掲示されています。ここに記されている品質への思いは、世代を超えて社員に受け継がれ、現在に至るまで、大塚の「ものづくり」を支える基盤となっています。



高品質な製品の安定供給のために

当社では、生産部門の一人一人が医療の一端を担うという高い意識を持ち、GMP^{*}文書などマニュアル化された厳格な手順書に従い、製造を行っています。複雑化・高度化する医薬品製造装置や、コンピューターシステムバリデーションに代表される製造装置制御のソフトウェアなどへの対応も、品質に大きくかかわるファクターとして重要視されており、製造に携わる社員には、より高度な知識と技術が求められるようになっています。このような現状を踏まえ、生産部門では、これまでに蓄積された当社の製造技術や新しい技術を正確に承継・習得するための教育プログラムに加え、管理者のためのスペシャリスト教育、各種技能検定資格取得の奨励、生産活動に関する創意工夫の提案を幅広く募り実行する提案活動など、高品質な製品の安定供給に貢献するさまざまな取り組みを行っています。

*GMP (Good Manufacturing Practice) : 医薬品等の製造管理および品質管理に関する基準。

医療に貢献する革新的な製品の創出を目指して

医療ニーズを捉え開発・改良した製品をいち早く患者さんのもとへ



医療の場では、専門知識を持ったMR（医薬情報担当者）が、適切な輸液・栄養療法等の情報提供を医療従事者に行っており、こうした活動を通じ、医療従事者との信頼関係の構築に努める一方、患者さんや医療従事者の声をいち早く研究開発部門や生産

部門へフィードバックし、新製品の開発や既存製品の改良に反映させています。

私たちはこれからも、さまざまな声に真摯に耳を傾け、臨床栄養分野のみならず、医療・介護の場に貢献できる革新的な製品の創出を目指して活動していきます。

世界に広がる高品質な製品とソリューション

日本の輸液のリーディングカンパニーとして培った当社の高い技術力を生かし、現在、大塚グループでは当社を含め17の事業会社で輸液事業を行っています。各国の市場ニーズに合った、より付加価値の高いソリューションの海外展開を図り、現地の医療に貢献していきます。

製品とサービスを組み合わせたソリューション（課題解決）の提供を目指して



さらに、当社は「予防・診断・治療・モニタリング」といったヘルスケアプロセス全体をカバーできるよう事業領域の拡大を進めています。例えば、製品開発だけではなく、デジタル技術を活用した予防・治療等に資するサービスの開発を進め

ています。製品・サービスを組み合わせた新たな価値創出により、予防から回復に貢献できるようなソリューションを提供できる会社でありたいと考えています。

大塚の海外輸液事業会社



患者さんに役立つ革新的な製品を創り出すために

医薬品からメディカルフーズの開発へ

アンメットメディカルニーズへのチャレンジ

アンメットメディカルニーズ（いまだに有効な治療方法がない医療ニーズ）に対し、探索段階から患者さんや医療従事者の声に耳を傾け、その視線の先、未来にある課題をしっかりと捉え、革新的な製品開発に取り組んでいます。既存の枠組みにとらわれない柔軟な発想で、真に求められる製品を生み出していきます。

臨床栄養領域における新たな価値創造、社会課題の解決

当社の主力事業である輸液が関わる、水・電解質代謝異常や栄養障害の治癒・改善を目標とした製品開発を行っています。生命の根幹とも言える水分や栄養の異常は、幅広い病気や怪我、手術などの治療や予後に大きく影響するものですが、近年では特に、がん、腎不全（透析）あるいは敗血症といった病態に注力しています。これらの病態に対しては、日々、世界各地で新しい治療薬の開発が行われておりますが、私たちは、これらの病態を種々栄養素の代謝異常という観点で捉え、各々の病態に適した、あるいは必要とされる栄養を与えることで、病態の進行を制御し、薬物や手術による医療成績を向上させることができます。このような視点から、私たちは、新しい輸液製品や栄養素を利用した治療薬の開発を目指して研究を行っています。

TOPICS | 2024年、慢性腎不全高カリヨー輸液用アミノ酸・糖・電解質・総合ビタミン液「キドバレン輸液」を開発。

キドバレン輸液は、水分制限が必要となる慢性腎不全の病態を考慮し、1050mL中にアミノ酸、糖、電解質（カリウム、リンを除く）及びビタミン（FDA2000処方[※]に準拠）を3室からなる容器に一剤化した、熱量1500kcalを投与できる慢性腎不全患者さん用の中心静脈栄養法用キット製剤です。使用時に隔壁を開通させることで、無菌的に混合調製し投与できるので、慢性腎不全患者さんのTPN管理に用いる製剤の選択肢を広げ、医療現場の負担を軽減することを期待しています。

[※]FDA2000処方：FDA（米国食品医薬品局）が2000年に発出した静脈栄養のためのビタミン処方



感染症や術後合併症の防止に寄与する製品の研究開発

医療行為に伴う侵襲や合併症・偶発症を低減するための医薬品や医療機器の開発を行っています。2015年には、術後感染防止策として外皮用殺菌消毒剤「オラネジン」を開発し、さらに塗布範囲が識別できる着色剤、消毒剤と塗布器を一体化した消毒用アプリケータを提供しています。2020年には、消化器内視鏡検査・治療の視野不良を改善するための内視鏡用視野確保ゲル「ビスコクリア」を開発し、超音波伝達媒体としても使用可能となりました。私たちは常に医療従事者の声に耳を傾け、多様化する医療ニーズに対応する製品開発と革新的アプローチを推進しています。

医療の現場に近い研究開発

当社の研究所では、基礎研究から非臨床試験まで幅広い試験を実施し、アンメットメディカルニーズに応えるために患者中心の製品開発に力を入れています。患者や医療従事者の声を重視し、開発部門との連携を図りながら、医療現場からのフィードバックを基に新しい製品を開発しています。また、営業部門や事業開発部門とも連携し、薬効や安全性を高めるために製剤や容器のデザインにも新しい技術を取り入れています。



エビデンス（科学的根拠）に裏付けられた製品開発

私たちは、臨床栄養に強みをもつ製薬会社だからこそできる、エビデンスに裏付けられた独創的な食品を開発することをミッションとし、医療・介護の場で役立つこれらの食品を「メディカルフーズ」と呼んでいます。超高齢社会に突入し

た日本において、製薬会社に課せられた使命に鑑み、「脱水」「低栄養」「えん下障害」をキーワードに製品開発を加速させています。また、国内のみならず、アジアを中心に海外での事業展開、製品開発にも取り組んでいます。

輸液のリーディングカンパニーが開発した経口補水液「オーエスワン®」シリーズ



オーエスワン® 500/300mL オーエスワン® ゼリー200g オーエスワン® アップル風味500/300mL オーエスワン® アップル風味ゼリー200g オーエスワン® パウダー1L用30g/500mL用15g



経口補水液「オーエスワン」は、経口補水液としては日本で初めて、特別用途食品 個別評価型病者用食品としての表示許可を取得し、軽度から中等度の脱水症のための食事療法（経口補水療法）に広く活用されています。

オーエスワンは、患者さんやご高齢の方、小児まで広くご使用いただく病者用食品として、容器改良や、新フレーバーのアップル風味を追加発売するなど、利用しやすさに配慮した製品作りを行っています。

食事として摂取すべき栄養素をバランスよく配合した濃厚流動食品「ハイネックス®(HINEX)」シリーズ



大塚グループでは輸液を中心とする臨床栄養製品の開発力を生かし、1970年代より、患者さんが経口摂取できる栄養食に着目した製品開発に取り組んできました。1979年に発売した濃厚流動食品の「ハイネックス(HINEX)」ブランドは、国内だけでなく海外にも製品展開しています。

日本国内では、ハイネックスイーゲルとハイネックスイーゲルLC、ハイネックスリニュート、ハイネックスゼリーを

展開しています。ハイネックスイーゲルとハイネックスイーゲルLCは使用時に液体で、胃の中でゲル状に物性が変化する濃厚流動食品です。ハイネックスリニュートは栄養再開初期のタンパク質、エネルギーなどの補給に配慮した濃厚流動食品で、ハイネックスゼリーは半固形状(ゼリータイプ)の濃厚流動食品です。今後もラインアップのさらなる充実を図り、患者さんの栄養状態の改善に貢献してまいります。

詳細は当社コーポレートサイトの
「研究開発」ページへ



大塚製薬工場の受託製造とは



輸液周辺技術を生かした受託事業

医薬品の開発・製剤設計から実生産までをフルサポート

当社の受託事業の強みは、輸液事業で培った輸液周辺技術を生かした製品の提案と、高品質で効率的な生産システムの提供です。委託会社の多様なニーズに応じて、技術部門、品

質部門、製造部門と連携し、医薬品の開発・製剤設計から実生産までをフルサポートします。

幅広いニーズに対応する受託製品ラインアップ

現在、多くの製薬企業から委託を受け、さまざまな剤形の医薬品を製造しています。注射剤では「大塚マルチチャンバーバッグシステム」（抗生物質と溶解剤がワンプッシュで無菌的に調製できる容器の仕組み）を活用した抗生物質キット製剤をはじめ、小容量に対応したプラスチックアンプルや、各種ソフトバッグ製剤を製造しており、外用剤では軟膏やク

リーム剤等を取り扱っています。また、大塚グループ各社と連携した受託製造も行っており、子会社である株式会社ジェイ・オー・ファーマでは、プレフィルドシリンジ製剤を製造しています。今後も受託事業領域におけるベストパートナーシップの確立を目指して、医療に幅広く貢献できる受託製品を提供します。

株式会社ジェイ・オー・ファーマ

医療の現場に安心と信頼を最新技術でサポート

プレフィルドシリンジ（薬液充填済み注射器）の専業メーカーとして、最新鋭の製造設備と厳格な品質管理、医療現場の声による継続的な製品改良により、常に最高の製品づくりを目指しています。



島根県出雲市下古志町 127-1
Tel.0853-24-8760
事業内容：プレフィルドシリンジ（薬液充填済み注射器）の製造

詳細は当社コーポレートサイトの
「受託製造」ページへ



日本の輸液を支える生産拠点

自然環境と共存しながら、高品質の製品を安定供給

安定した輸液製造のためには、豊かで清らかな水環境が必要です。当社の国内4工場は、創業の地である徳島県の鳴門市と板野郡松茂町、北海道釧路市、富山県射水市に立地し、それぞれ豊かな自然環境と共に生産を行っています。

鳴門工場



大塚グループの発祥の地であり、当社の本社や研究所がある鳴門地区は、輸液のリーディングカンパニーの本拠地としての役割を担っています。渦潮で名高い鳴門海峡にほど近く、観光資源にも恵まれた自然豊かな地です。

ここでは、注入針付キット製剤やプラスチックボトル製剤の製造に加え、歴史を積み重ねてきたブランドのオロナインH軟膏などを製造しています。

- 所 在 地／徳島県鳴門市撫養町立岩字芥原 115
- 操 業／1921年
- 敷 地 面 積／102,644m²（本社、研究所等含む）
- 主な製造品目／注入針付キット製剤、プラスチックボトル製剤、OTC（一般用）医薬品他

ISO14001認証取得（2003年5月）

松茂工場



はるか紀州や淡路島を望む紀伊水道沿岸の工業団地内にあり、徳島空港に隣接し県外からのアクセスもよい松茂工場は、合理化された高性能の輸液工場です。

ここでは50mLから1000mLのシングルバッグ製剤、ダブルバッグ製剤、20mLのプラスチックアンプル製剤の製造に加え、当社が世界で初めて開発したダブルバッグタイプの抗生物質キット製剤などを製造しています。

- 所 在 地／徳島県板野郡松茂町豊久字豊久開拓 139-1
- 操 業／1990年
- 敷 地 面 積／165,611m²
- 主な製造品目／シングルバッグ製剤、ダブルバッグ製剤、プラスチックアンプル製剤、抗生物質キット製剤他

ISO14001認証取得（2003年8月）

釧路工場



タンチョウ（丹頂鶴）で有名な釧路湿原国立公園に近く、水質の良い広大な土地を生かした釧路工場は、当社の北の拠点として、各種輸液製品の製造を行っています。

ここでは200mLから500mLのシングルバッグ製剤、20mLのプラスチックアンプル製剤に加え、当社が世界で初めて開発したクワッドバッグ製剤などを製造しています。

- 所 在 地／北海道釧路市音別町朝日 1 丁目 13
- 操 業／1976年
- 敷 地 面 積／244,475m²
- 主な製造品目／シングルバッグ製剤、トリプルバッグ製剤、クワッドバッグ製剤、プラスチックアンプル製剤

ISO14001認証取得（2002年9月）

富山工場



富山工場は、北は富山湾、南東には立山連峰と、自然が豊かな資源に恵まれた環境にあります。日本で唯一の静注用脂肪乳剤を製造している工場です。

ここでは50mLから250mLのシングルバッグ製剤に加え、ダブルバッグ製剤、クワッドバッグ製剤を製造しています。

- 所 在 地／富山県射水市有磯 2 丁目 27-1
- 操 業／2001年
- 敷 地 面 積／75,300m²
- 主な製造品目／シングルバッグ製剤、ダブルバッグ製剤、クワッドバッグ製剤

ISO14001認証取得（1999年4月）

詳細は当社コーポレートサイトの
「各拠点の取り組みサイト」ページへ



世界へ広がる大塚の輸液

日本の輸液のリーディングカンパニーとして培った当社の高い技術力を生かし、大塚グループでは、1970年代から海外展開を始め、現在、当社を含め17の事業会社で輸液事業を行っており、各国の医療に貢献しています。それらの多くで輸液を現地製造しており、適正価格での提供や雇用創出など、地域社会への貢献にもつながっています。また輸液を輸出することで、周辺諸国の医療にも深く関わりを持ち、グローバルな視点でビジネスを開拓しています。当社はこれからも、輸液を中心とした医療用医薬品やメディカルフーズなどの分野で、各々の市場ニーズに合った、より付加価値の高い製品の海外展開を図り、現地の医療に貢献していきたいと考えています。



1977年に設立。輸液を中心に製造販売を行っており、エジプト国内で高いシェアを占めています。エジプト大塚製薬の製造する輸液は、近隣の中東・アフリカ諸国にも輸出されています。



2021年、エジプト大塚製薬が現地製薬会社と共同で資本参加し、輸液などの医療用医薬品等を販売する新会社として「大塚ジプト株式会社」を設立しました。エジプトやその近隣諸国において、情報提供および販売を行っています。



～進化し続ける製品ラインアップ～

医療用医薬品

■高カロリー輸液用キット製剤



■低濃度糖加アミノ酸製剤



■アミノ酸製剤



■静注用脂肪乳剤



■糖類剤



■血漿增量剤



■電解質製剤



経腸栄養剤



■外用殺菌消毒剤



■抗生素製剤



■脳脊髄手術用洗浄・灌流液

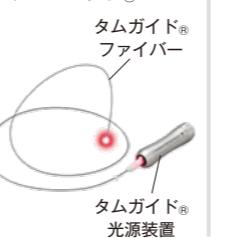


■胃炎・胃潰瘍治療剤



医療機器

■経鼻胃管先端位置確認システム タムガイド®



■自然開口向け内視鏡用視野確保ゲル



■膀胱用超音波画像診断装置



■間欠泌尿器用カテーテル



口腔ケア製品

■口腔ケア用ジェル(薬用歯みがき)



■口腔潤滑ジェル



メディカルフーズ

■経口補水液



■濃厚流動食品関連製品



■えん下困難者用食品



■咀嚼開始食品



OTC 医薬品（一般用医薬品）

■皮膚疾患・外傷治療薬

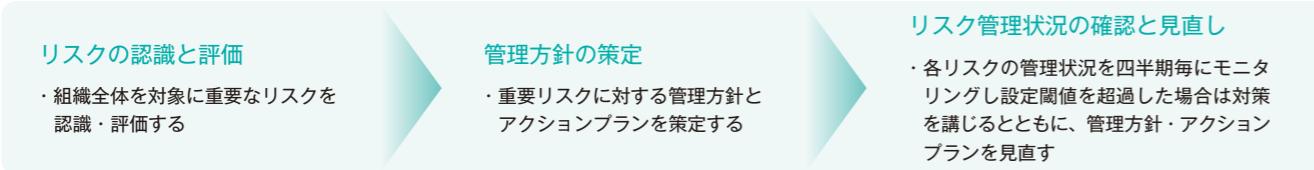


ERM（全社的リスクマネジメント）と BCP（事業継続計画）への取り組み

当社は、企業理念の実現や、事業戦略の目標達成に大きな影響を与える不確実性を「リスク」と定義し、実効性のあるリスク管理活動を組織の隅々まで浸透させ、変化に対応できる強い組織になることを目指して、ERM活動をし、リスクの低減に努めています。その実現のため、当社ではリスク管理規程を定め、リスク管理委員会を設置しています。事業の継

続および安定的発展に影響を及ぼすリスクの未然防止（リスクマネジメント）、インシデントが発生した場合の被害拡大防止（クライシスマネジメント）、自然災害やパンデミックなど、事業継続に大きな影響をもたらすリスクの中での事業継続計画（BCP）の3つの観点より、より強固なリスクマネジメント体制の構築に取り組んでいます。

リスク管理委員会



国際規格「ISO22301」の認証取得

大塚ホールディングス株式会社において、事業継続マネジメントシステム国際規格「ISO22301」を認証取得しており、その適用範囲に当社の主力製品である「輸液の安定供給」が含まれています。災害発生時においても、大塚グループ全体で、最大限に事業活動を継続し安定した製品供給ができる対策・体制の強化に取り組んでいます。

自然災害に備えた取り組み

当社は、南海トラフ地震による浸水被害が懸念される徳島県の生産拠点に、徳島県津波浸水想定を基に、防潮堤を設置するなど工場内への浸水を防止するための対策を講じています。鳴門工場には、生産建屋ごとに防潮扉を設置し、河川水の逆流による浸水被害を早期解消するため、排水機能の補強・

改修を行っています。松茂工場には、工場敷地の外周に防潮堤を設置しました。この外周には排水口ゲートを設け、逆流による浸水から工場を守ります。また、ユーティリティー対策として、両工場ともに工業用水の配管を耐震性のあるNS形ダクタイル鉄管へ更新しました。

松茂工場における外周防潮堤の設置



外周防潮堤 ●全長／1,620m ●設置年月／2014年6月 ●高さ／東西南面 2.0m (T.P.+3.9m)、北面 2.70～3.35m
●鋼管杭／径φ 300～400mm、長さ 17～20m、本数 678 本

製品の安定供給に向けて

当社の主力製品である輸液は、有事の際、初期治療で特に必要とされるものです。輸液の国内市場において過半数のシェアを占める会社として、私たちには甚大な災害下でも機能するBCPが求められます。輸液のリーディングカンパニーとして課せられた使命に鑑み、「生命の安全確保」「企業資産

の保全」「製品在庫と原材料の確保」「物流手段の確保」という4つの視点からBCPに取り組み、リスクが顕在化した場合においても適切な対応を図ることにより、被害・損失を最小限に留め、事業活動を継続し、製品の安定供給を確保すべく体制を構築しています。

生命の安全確保

社員の安全確保を第一に考え、建屋・設備の耐震性の確保や緊急地震速報受信装置の設置、通信手段の多様化・多重化を図るとともに、安否確認システムによる従業員の安否確認や、従業員への有用な情報をまとめた災害時ポケットマニュアルの配布などを行っています。また全事業所に、防災用品や食料品、生活用品を備蓄する一方、社員のみならず周辺地域と一体となった防災訓練にも取り組んでいます。



停電時に自動で20時間以上点灯するLED防災ライトを避難経路、避難場所に設置

企業資産の保全

大規模地震による津波浸水・液状化等の被害を軽減するため、建屋の耐震補強や防潮堤を設置しています。さらに生産工場にエネルギー（電気、蒸気、冷却水等）を供給するための配管ラックの支柱を補強するとともに、液状化時に生じる構造物の傾斜を軽減する対策を講じています。また重要データ・システムが被害を受けた際、速やかにデータを復旧できるようデータセンターを多重化し、バックアップ体制を構築しています。



松茂工場への外周防潮堤の設置

製品在庫と原材料の確保

生産施設が甚大な被害を受けた場合でも、治療に欠かせない製品やシェアの高い製品については、継続して供給ができるよう、製品在庫を確保しています。また、非常時に原材料の入手が困難になることにより、当社の製品安定供給に支障が出ないよう、リスクが顕在化する前に予兆を察知し、迅速に対応するため、平時より原材料の適正在庫の確保と複数社購入に取り組んでいます。



輸液の在庫管理を行っている製品保管庫

物流手段の確保

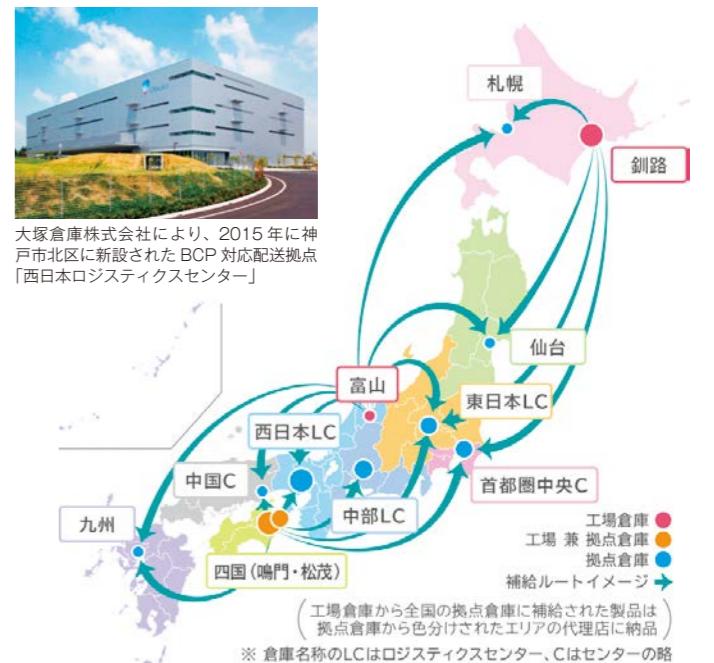
大塚グループの物流を担う大塚倉庫株式会社は、物流拠点・製品在庫の分散化やネットワークの構築、新たな在庫拠点の確保、受注センターの多重化、配送ルートの多様化など、全国の拠点ネットワークを生かし、万一の際にも迅速に物流サービスを提供できる体制を整備しています。



大塚倉庫株式会社により、2015年に神戸市北区に新設されたBCP対応配送拠点「西日本ロジスティクスセンター」

大塚グループで取り組むBCP演習

大塚グループは、想定外の事態が起きた際の対応力・応用力・想像力を強化するため、脅威が実際に発生した状況を想定した演習を、定期的にグループ主要会社合同で実施しています。また当社においては、主力製品である輸液の安定供給に関する関連部署と連携し、2023年に初動対応手順書を見直し、BCPに沿った机上演習訓練を実施しました。現状課題の整理、対応策等をグループ全体で議論し、リスクマネジメント機能の強化に取り組んでいます。



詳細は当社コーポレートサイトの「リスクマネジメント」ページへ



地球環境の保全のために

環境理念

環境保全は全員参加の経営活動

大塚製薬工場は、人々の健康（体内環境）と地球環境（体外環境）の保全を目指した環境活動を全社的に推進し、持続可能な循環型社会の実現と自然と融和した社会の創造に貢献します。

環境活動指針

環境コンプライアンス

環境コンプライアンスの実効性を高め、リスクを低減します。

環境マネジメント

環境マネジメントシステムを継続的に改善し、環境マテリアリティに関連する活動を推進します。

カーボンニュートラル

事業活動由来の温室効果ガスおよび消費エネルギーの削減、エネルギー利用効率の向上のほか、環境負荷の少ないエネルギーへの転換や再生可能エネルギーの利用促進を通じて、気候変動の緩和に取り組み、持続可能な社会の構築に貢献します。



釧路工場のソーラーパネル

ウォーターニュートラル

事業活動において、水は欠かすことのできない大切な資源です。そのため、取水から排水に至る水の保全に継続的に取り組む（水を育む森づくり→水を大切に使う→水をキレイに自然に還す）ことで、ウォーターニュートラルを目指します。



植樹活動に参加する社員とその家族

環境に配慮した技術

環境に配慮した技術を積極的に開発・導入することにより、持続可能な社会の形成に寄与する製品・サービスを提供していきます。

人財育成

人財育成と企業風土の醸成を図り、従業員一人ひとりが日々の活動を通じて環境活動に取り組みます。

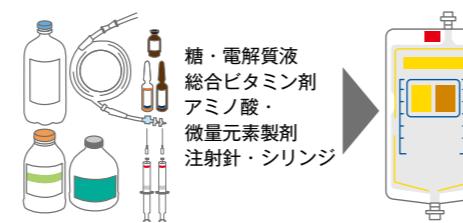
コミュニケーション

ステークホルダーとのコミュニケーションを図るため、環境情報を透明性高く開示します。

サーキュラーエコノミー

限りある資源を守るために、廃棄物の発生抑制、資源の利用効率の改善や循環利用を推進するとともに、容器包装の軽量化や環境に配慮した素材への移行を通じて、持続可能な社会の構築に貢献します。

安全性や利便性が高く、環境にも配慮した製品の開発



バイオダイバーシティ

生物多様性がすべての事業活動になくてはならない自然資本であるとの認識のもと、自然の恩恵を受ける社会の一員として、豊かな自然を次世代につなぐ持続可能な社会の実現にむけて事業活動における生物多様性への影響に配慮し、保全と回復に取り組みます。



私たちにできること

大塚グループは、地域の人々と協力しながら、社会文化活動を通じて地域の発展に貢献しています。当社においては、地域貢献の理念のもと輸液のリーディングカンパニーとして、自治体と健康づくりの推進や防災で連携しています。また、積極的に災害復興支援、被災者支援などを行っています。

被災地への支援活動

輸液は、有事の際、初期治療で特に必要とされるものです。災害時には、官公庁等からの要請に基づき、当社製品を役立てていただけるよう被災地へ輸液などの医療用医薬品や経口補水液の提供等を行っています。また、海外子会社でも、現地の災害復興支援活動を積極的に行ってています。



被災地支援のため、経口補水液を車に積み込む社員

地域、自治体との取り組み

当社では災害時に備え、本社および全ての生産拠点において、地元自治体と防災協定を締結しています。地域住民や関係者に、私たちのBCP（事業継続計画）の取り組みに関する説明会や施設見学会、合同津波避難訓練なども実施しています。

また、徳島県鳴門市、北海道釧路市、兵庫県小野市、富山県射水市、福岡県田川郡香春町と包括連携協定を締結しまし



北海道釧路市との防災協定締結式

た。この協定は市・町と当社が相互に協力して、栄養、食支援（フレイル・低栄養・摂食嚥下・口腔ケア等）、排泄ケア、熱中症や脱水の啓発などを行うことにより、市民の健康づくりの推進と地域医療を守り育む活動に寄与するとともに、地域包括ケアシステムの構築ならびに地域共生社会の実現に貢献すること目的にしています。



地域と連携した防災訓練

子どもたちの健康を願う「OTSUKAまんがヘルシー文庫」の活動

「OTSUKA まんがヘルシー文庫」は子どもたちの健康を願い、身体のしくみや健康について関心と理解を深めるために、毎年1巻発刊し、全国の小・中学校をはじめ特別支援



OTSUKA まんがヘルシー文庫
<https://www.otsuka.com/jp/comiclibrary/>



詳細は当社コーポレートサイトの
「サステナビリティ」ページへ



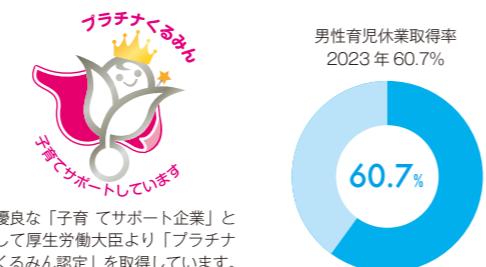
よりよい労働環境を目指して

ダイバーシティ

私たちが目指すダイバーシティとは「多様な人財を採用し、個性を尊重しながら戦略的に人財を育成、活用することで、社員一人一人が活躍できる場を提供すること」です。多様な社員がそれぞれの個性を「強み」に変え、国籍、人種、年齢、性別、障がい、性的指向などにかかわらず、自分らしく「働きがい」のある組織を推進し、お互いを尊重しながら健全かつオープンな議論や挑戦ができるインクルーシブな企業文化を醸成することにより、創造性あふれる会社、社会から信頼される会社を目指してまいります。

ワーク・ライフ・バランス

当社は、社員のライフスタイルを尊重し、柔軟な働き方ができるよう、時間外労働時間の削減や在宅勤務制度の導入、育児休業、介護休業や育児勤務制度といった仕事と家庭の両立に配慮した制度の充実を図るなど、職場環境の整備に取り組んでいます。



家族の工場見学

会社全体で子育てを温かく見守り支えていく意識の醸成を目的とし、社員の家族を対象に工場見学会を実施しています。家族が働く職場を見学し、ランチタイムには社員食堂で一緒に食事を楽しんでいます。今後も社員と家族のコミュニケーションに役立つさまざまな取り組みを行ってまいります。



ビーンスターク保育園とくしま

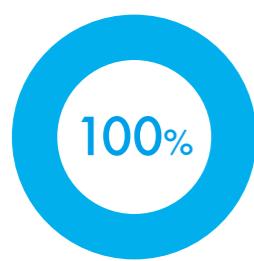
大塚グループ社員の事業所内保育所「ビーンスターク保育園とくしま」は、創造性を育む独自性の高い保育が好評で、当初 100 名だった定員を 2018 年には 210 名に倍増。国内最大級の規模となりました。延長保育など急な事情にも対応できる体制を整えており、充実した育児サポートを行っています。私たちは、子育てをする社員が安心して仕事を継続できる環境を整えています。



健康経営の実践

当社は、全社員が生き生きと働くことができる職場環境を実現するとともに、健康に対する意識醸成を通じて健全な経営を推進し、社員とその家族の健康維持・増進に取り組んでいます。

定期健康診断対象者の受診率100%



インフルエンザ予防接種費用の全額負担（派遣社員含む）



運動不足および睡眠不足を解消するためのフィットネスアプリを導入



詳細は当社コーポレートサイトの「サステナビリティ」ページへ



文化・スポーツへの貢献

大塚製薬陸上競技部

1990 年に創設された大塚製薬陸上競技部は、男女ともにオリンピックや世界選手権へ日本代表選手を送り出すなど活躍を続けています。練習や合宿の合間には、陸上教室を開催する等、企業スポーツを通じた地域貢献活動も行っています。

在籍人数

男子選手 16 名、女子選手 9 名（2025 年 2 月現在）

最近の主な成績

古賀 友太	2024 年世界チーム競歩 20km 競歩 4 位 2024 年パリオリンピック 20km 競歩 8 位 2023 年ブダペスト世界選手権 20km 競歩 日本代表
津波 韶樹	2024・2025 年 日本選手権・室内大会 走幅跳 優勝 自己記録 8m23 日本歴代 5 位
小林 香菜	2025 年大阪国際女子マラソン 2 時間 21 分 19 秒 2 位（日本人トップ・日本歴代 11 位） 2024 年府防観音マラソン 2 時間 24 分 59 秒 優勝

歴代オリンピック、世界選手権日本代表選手

犬伏 孝行	（2000 オリンピック（男子マラソン））
細川 道隆	（2005 世界選手権（男子マラソン））
渕瀬 真寿美*	（2012 オリンピック、2009・2011・2013 世界選手権（女子 20km 競歩））
伊藤 舞	（2016 オリンピック、2011・2015 世界選手権）
金丸 祐三*	（2012・2016 オリンピック、2011・2013・2015・2017 世界選手権（男子 400m））
大室 秀樹	（2017 世界選手権（男子 110mH））
津波 韶樹	（2021 オリンピック（男子 走幅跳））
古賀 友太	（2023 世界選手権（男子 20km 競歩）） （2024 オリンピック（男子 20km 競歩））

* 現在は当社所属ではありません

詳細は「大塚製薬陸上競技部」サイトへ



地域文化「阿波おどり」の継承

徳島県の企業として、郷土の伝統文化「阿波おどり」を受け継ぎ、社員有志で「大塚うず巻連」を結成。毎年、鳴門市内・徳島市内の阿波おどりに参加しています。鳴門市で最も古い歴史を持つ「うず巻連」の名を引き継いだ私たちは、地域文化の継承の一端を担っています。

会社名 … 株式会社大塚製薬工場
本社所在地 … 〒772-8601
徳島県鳴門市撫養町立岩字芥原115
東京事務所 … 〒101-0048
東京都千代田区神田司町2-9
設立年月日 … 1969年10月7日（創立1921年9月1日）



事業所一覧

●本社
〒772-8601
徳島県鳴門市撫養町立岩字芥原115
Tel.088-685-1151（代表）

●東京事務所
〒101-0048
東京都千代田区神田司町2-9
Tel.03-5217-5976
・営業本部 Tel.03-5217-5955
・OS-1事業部 Tel.03-5217-5951

●アメリカ事務所
10N. Martingale Road,
suite 400 Schaumburg,
Illinois 60173, USA

●研究所
・研究開発センター
・技術センター
・メディカルフーズ研究所

●工場
・鳴門工場
・松茂工場
・釧路工場
・富山工場

●支店
・北海道支店
・東北支店
・高崎支店
・大宮支店
・東京支店
・横浜支店
・東海支店
・京滋北陸支店
・関西支店
・中国支店
・九州支店
・徳島支店

コーポレートシンボル



コーポレートシンボルは大塚グループ企業理念をシンボリックに表したもので、大塚の「O」をモチーフにしています。「大きなO」は人々の頭上に広がる青空のイメージです。『開放感』、『自由』、『知性』、『未来』を表す Otsuka BLUE のグラデーションで深みと広がりを持たせています。Otsuka RED の「小さなO」はその根源となる大塚グループのエネルギーです。大きさの異なる二つの形がバランスを保ち、ソフトで親しみのある Otsuka の文字との組み合わせで「人間の健康で幸せな空間と、それを支える大塚グループのエネルギーッシュな活動」を表現しています。

主要な海外子会社・関連会社

苏州大塚製薬有限公司
大塚製薬ベトナム株式会社
大塚ジプト株式会社

大塚製薬インド株式会社
エジプト大塚製薬株式会社
PT 大塚インドネシア

PT ウィダトラバクティ
大塚エル・オブル製薬エジプト株式会社
ダイアトランズ大塚株式会社

代表取締役社長 … 高木 修一
資本金 … 150.8億円
売上高 … 1,443億円（2024年）
従業員数 … 2,350名（2024年12月31日現在）
事業内容 … 臨床栄養製品を中心とした医薬品、医療機器、機能性食品等の製造、販売および輸出入



主要な国内子会社

私たちは国内9社、海外16社の子会社・関連会社と協力しながら事業活動を展開しています。会社間の連携で生み出されるシナジー効果によって、患者さん

や医療従事者により良い革新的な製品をお届けすることを目指しています。国内で医療に関わる事業を行う5社をご紹介します。

大塚テクノ株式会社

人々の安全と安心に貢献する技術

汎用プラスチックからスーパーエンジニアリングプラスチックまで、あらゆる樹脂を「高い技術力」「クリーンな環境」「優れた品質」のもと、成形・加工を行っています。



〒771-0360
徳島県鳴門市瀬戸町明神字板屋島120-1
Tel.088-683-7111
事業内容：医療用プラスチック容器部材および精密成型品の製造販売

株式会社ジェイ・オー・ファーマ

医療の現場に安心と信頼を最新技術でサポート

プレフィルドシリンジ（薬液充填済み注射器）の専業メーカーとして、最新鋭の製造設備と厳格な品質管理、医療現場の声による継続的な製品改良により、常に最高の製品づくりを目指しています。



〒693-0032
島根県出雲市下古志町127-1
Tel.0853-24-8760
事業内容：プレフィルドシリンジ（薬液充填済み注射器）の製造

イーエヌ大塚製薬株式会社

栄養を研究し、優れた製品と情報を提供することで、世界の人々の健康長寿に貢献します

医療用医薬品である経腸栄養剤「イノラス」や、かむ力が弱い方向けの食事「あいーと」など、革新的で創造性に富んだ幅広い製品を通じて、世界の人々の健康への貢献に取り組み、より有意義な製品・情報を速やかに提供できる「栄養ケアのサポーター」を目指してまいります。



〒025-0312
岩手県花巻市二枚橋第4地割3-5
Tel.0198-26-5261
事業内容：経腸栄養剤、医療食、高齢者用食品、各種病患者用食品などの研究・開発・製造・販売および輸出入

株式会社リリアム大塚

革新的排尿ケア製品の創出と新市場の創造

超音波技術を用いて、膀胱内尿量の「見える化」のための機器開発、ユニークなソリューションの提供を行っており、超高齢社会の排尿ケアに貢献します。

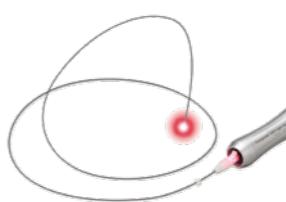


〒252-0239
神奈川県相模原市中央区中央1-1-1
ジブランタ生命相模原ビル3階
Tel.042-707-4258
事業内容：医療機器および関連製品の研究開発・製造販売

大塚クリニカルソリューションズ株式会社

革新的かつ実用的な課題解決（ソリューション）を医療現場に提供することで、医療の質向上に貢献します

医療機器の製造業、製造販売業として、経鼻胃管先端位置確認システム「タムガイド」をはじめとする画期的な技術を活用した先端医療機器の製造開発に取り組みます。



〒904-2311
沖縄県うるま市勝連南風原5194-63
Tel.098-923-0407
事業内容：医療機器および関連製品の製造販売



詳細は当社コーポレートサイトの
「大塚グループ（当社子会社他）」ページへ



— 大塚グループ企業理念

Otsuka-people creating new products for better health worldwide

世界の人々の健康に貢献する革新的な製品を創造する

— 概要

大塚グループは、1921年に創業し、世界の人々の健康への貢献を目的に、疾病の診断から治療までを担う「医療関連事業」と日々の健康の維持・増進をサポートする「ニュートラシューティカルズ¹⁾関連事業」の2本柱で事業を開拓しています。歴代の経営者が育んできた「流汗悟道」「実証」「創造性」という大塚の伝統を受け継ぎ、現在では世界32カ国・地域、174社で約35,000人²⁾の社員が、大塚らしいユニークな製品・サービスを提供し続けるため活動を行っています。

*1. ニュートラシューティカルズ: Nutraceuticals = nutrition(栄養) + pharmaceuticals(医薬品)

*2. 2024年12月末現在。大塚ホールディングスおよびその連結子会社

— グループ構成

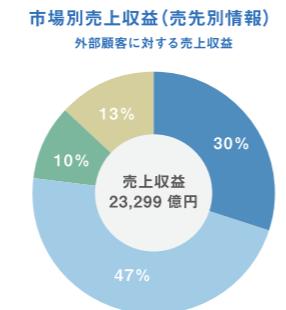
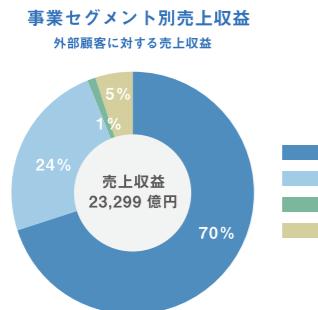


— 沿革

- 1921年：徳島県鳴門市に化学原料メーカーとして創業
- 1946年：輸液（点滴注射液）事業を開始し、医薬品事業に参入
- 1965年：消費者向けの健康飲料（オロナミンCドリンク）を発売、ニュートラシューティカルズ関連事業に参入
- 1971年：大塚製薬が大塚グループとして初の自社医薬品研究室を設立
- 1973年：世界の人々の健康に貢献することを目的に初の海外進出
- 2008年：グループの純粋持株会社として大塚ホールディングスを設立
- 2010年：東京証券取引所*市場第一部に上場
- 2021年：創業100周年

*2022年4月より同取引所プライム市場に移行

— 財務内容



大塚ホールディングス株式会社の詳細はこちら ▶ <https://www.otsuka.com/jp/>



— 大塚グループのサステナビリティ

大塚グループにとって、より良い未来へ向けた社会課題の解決は、事業活動そのものです。その考え方と取り組みは、今、人の健康づくりだけでなく、社会の健康づくりや地球の健康づくりへも、広がっています。多種多様なグループが一体となり、企業の持続的成長とサステナブルな社会の実現に向け、トータルヘルスケアカンパニーとして、大塚グループはこれからも歩みを続けていきます。

企業理念

Otsuka-people creating new products for better health worldwide

世界の人々の健康に貢献する革新的な製品を創造する

目指す姿

To become an indispensable contributor to people's health worldwide

世界の人々の健康に貢献する、なくてはならない企業

サステナビリティミッション

大塚グループは、企業理念のもと、事業を通じた社会課題の解決に取り組み、自らの持続的な成長と健康でサステナブルな社会の実現を目指します。

サステナブルな社会の実現に貢献



マテリアリティと取り組みテーマ

サステナビリティミッションの達成にむけ、4つの重要項目（マテリアリティ）を特定しました。各マテリアリティ毎に戦略、施策、指標を設定し、取り組みを進めます。



トータルヘルスケア企業として世界の人々へウェルビーイングを提供



企業理念を実現する人財の育成と環境整備



ビジネスパートナーと協働したサステナブルな社会の実現



地球環境への負荷低減

Better healthからBeyond health、そしてウェルビーイングへ
グループ内外の多様な資産を活用した製品価値の最大化
満たされていない医療ニーズに対応する研究開発力の強化
世の中の変化に適応し、複合的な健康ソリューションを生活者に提供

大塚だからできる多様な人財の活躍
企業理念の実現に向け、イノベーションの源泉である人財力を強化
人財力を最大化させるための環境整備

持続可能なサプライチェーン
リスクに対応した強固な安定調達体制の構築
責任ある調達の推進

2050年環境ビジョン
ネットゼロ
カーボンニュートラル
サーキュラーエコノミー
ウォーターニュートラル
バイオダイバーシティ



大塚グループのサステナビリティの詳細はこちら▶ <https://otsuka.com/jp/sustainability/>

● 医療用医薬品・医療機器・OTC 医薬品・研究用試薬・医薬部外品・口腔化粧品
● メディカルフーズ

1921年 大塚武三郎、
大塚製薬工業部を創立



● 局方炭酸マグネシウムの製造を開始

1936年 ● 局方プロムカリ（臭化カリウム）の製造を開始、以後、
多品目化に踏み切る

1940年 大塚製薬工業部を大塚製薬工場に改称

1946年 ● 塩化カルシウム注射液、リンゲル液などの製造許可を得る
● 各種注射液などの医薬品製造を開始

1947年 大塚正士、大塚武三郎より経営権を継承

1948年 ● ブドウ糖注射液の
製造許可を得る



1950年 ● 炭酸水素ナトリウム注射液「メイロン静注 7%」発売

1951年 ● ガラスバイアル入り輸液の発売

1952年 ● 抗結核薬「ヒドラジットオーツカ」発売

1953年 ● 大塚グループ初の OTC 医薬品（一般用医薬品）
「オロナイン軟膏」発売



1960年 ● 必須アミノ酸注射液「パンアミン」、
高張必須アミノ酸注射液「パンアミン S」発売

1963年 ● 総合電解質輸液「KN 補液」シリーズを発売

1964年 ● 血流改善・体外循環灌流液「低分子デキストラント糖注」発売

1967年 ● 電解質輸液（乳酸リンゲル液）「ラクテック注」発売

1968年 ● 日本初となる
プラスチックボトル入り
輸液を製造開始



1969年 大塚製薬工場を法人化し、株式会社大塚製薬工場とする

大塚製薬工場の歩みはこれら



■原則として、現在の製品名で記載しています。
■製品写真は、原則として発売当時のものを掲載しています。
■当社の販売品目を掲載しています（大塚グループ他社の販売製品含む）。

1921年 大塚正士、
代表取締役社長に就任

1972年 ● 殺菌効果に優れたクロルヘキシングルコン酸塩を配合した皮膚疾患・外傷治療薬「オロナイン H 軟膏」発売

1973年 インドネシアに PT ウィダトラバクティが設立

1974年 ● 二糖類・糖質補給剤「マルトス輸液 10%」発売
● 日本初のプラスチックアンプル入り注射剤を発売

1975年 大塚芳満、代表取締役社長に就任

1976年 釧路工場を開設

1977年 エジプトにアラブ大塚製薬（現 エジプト大塚製薬株式会社）が設立

● 上部をねじり開封するツイストオフタイプの
プラスチックアンプル入り注射剤を発売



1979年 ● 糖質・電解質輸液（5% マルトース加乳酸リンゲル液）
「ポタコール R 輸液」発売

1982年 ● ブドウ糖加アミノ酸注射液「プラスアミノ輸液」発売

1984年 ● 肝性脳症改善アミノ酸注射液「アミノレバパン点滴静注」
発売

● 薬剤溶解用食注、蒸留水として、
100mL ビギーボトルを発売

1985年 大塚テクノ株式会社を設立

1986年 大塚明彦、代表取締役社長に就任

1988年 ● 総合アミノ酸製剤（10%）「アミバレン輸液」発売

● 経中心静脈栄養輸液用総合ビタミン剤
「オーツカ MV 注」発売

1990年 松茂工場を開設

1992年 ● 注射針付溶解剤「大塚生食注 TN」「大塚糖液 5% TN」発売

1994年 ● 複合糖加電解質液（維持液 10.5% 糖加）
「トリフリード輸液」発売

1999年 大塚芳満、代表取締役社長に就任

1995年 ● 大塚マルチチャンバーバッグシステムの開発とそれを用いた世界初の抗生物質キット製剤の製造承認を取得



1996年 ● セフェム系抗生物質製剤
「セファゾリン Na 点滴静注用 1g バッグ「オーツカ」」発売

● 腎不全用アミノ酸注射液（7.2%）「キドミン輸液」発売

1998年 小松喬一、代表取締役社長に就任

1999年 ● 主成分を生薬に変更した便秘薬「新サラリン」発売

2000年 ● 電解質輸液（1% ブドウ糖加酢酸リンゲル液）
「フィジオ 140 輸液」発売

2001年 富山工場を開設

● 静注用脂肪乳剤「イントラリボス輸液」発売

● 世界保健機関（WHO）の提唱する
経口補水療法の考え方に基づいた
経口補水イオン飲料「オーエスワン」
発売



2002年 イーエヌ大塚製薬株式会社を設立

● 高カロリー輸液用 アミノ酸・糖・脂肪・電解質液
「ミキシッド L・H 輸液」発売

2003年 大塚 OPV（現 大塚製薬ベトナム株式会社）が設立

● 咀嚼・えん下困難な場合を考慮した経口補水イオン飲料
「オーエスワンゼリー」発売

● グルタミン、ファイバー、オリゴ糖を含有する
粉末清涼飲料水「ジーエフオー」発売

株式会社ジェイ・オー・ファーマを設立

2004年 ● 高カロリー輸液用 糖・電解質・アミノ酸・総合ビタミン液
「ネオバレン 1号・2号輸液」発売

● 注入針付溶解剤「大塚生食注 2 ポート」「大塚糖液 2 ポート」
発売

大塚一郎、代表取締役社長に就任

● 経口補水液「オーエスワン厚生労働省許可 特別用途食品個別評価型病者用食品の表示許可取得」

2005年 ● 取り違え防止対策として、明瞭性、識別性に配慮した
ソフトバッグ製品のデザインヘリニューアル

2006年 ● えん下困難者の経口摂取開始時に適した、
えん下困難者用食品「エンゲリードアップゼリー」
「エンゲリードグレーブゼリー」発売

小笠原信一、代表取締役社長に就任

エジプトの現地製薬会社（現 大塚エル・オブル製薬ジプト株式会社）を子会社化

● ビタミン B1・糖・電解質・アミノ酸液
「ビーフリード輸液」発売

● 血液凝固阻害剤 ロック用ヘパリナトリアム液
「ヘパリン Na ロック用 10・100 単位/mL シリンジ
「オーツカ」5mL・10mL」発売

● 生理食塩液「生食注シリジン「オーツカ」
5mL・10mL・20mL」発売

● 経口補水液「オーエスワンゼリー」厚生労働省許可
特別用途食品 個別評価型病者用食品の表示許可取得

2007年 蘇州大塚製薬有限公司を設立

2008年 ● 脳脊髄手術用洗浄・灌流液
「アートセレフ脳脊髄手術用洗浄灌流液」発売

大塚ホールディングス株式会社設立

2009年 ● 清涼飲料水（ゼリータイプ）「インナーパワー」発売

● 携帯等にも便利な粉末タイプの経口補水イオン飲料
「オーエスワンパウダー」発売

● 高カロリー輸液用 糖・電解質・アミノ酸・総合ビタミン・
微量元素液「エルネオバ 1号・2号輸液」発売

● 水分量に配慮したゼリータイプの濃厚流動食品
「ハイネゼリーアクア」発売

2010年 ● 重炭酸リンゲル液「ピカネイト輸液」発売

大塚ホールディングス株式会社、
東京証券取引所市場第一部に上場

2011年 ● 経腸栄養剤（経管・経口両用）「ラコール NF 配合経腸用液」、
消化経腸栄養剤「ツインライン NF 配合経腸用液」発売

ニュージーランドにダイアトランズ大塚株式会社を設立

2012年 ● 経口補水液「オーエスワンパウダー」消費者庁許可
特別用途食品 個別評価型病者用食品の表示許可取得

● 自然開口向け内視鏡用視野確保剤「ビスコクリア」発売

2013年 インドの輸液事業会社（現 大塚製薬インド株式会社）に
資本参加

● 代用血漿剤「ボルベン輸液 6%」発売

2014年 ● えん下困難者用食品「エンゲリードアップゼリー」
「エンゲリードグレーブゼリー」消費者庁許可 特別用途
食品えん下困難者用食品（許可基準 I）の表示許可取得

● 外用殺菌消毒剤「ボビドンヨード液 10% 消毒用
アブリケータ「オーツカ」10mL・25mL」発売

● 経腸栄養剤「ラコール NF 配合経腸用半固体剤」発売

小笠原信一、代表取締役社長に就任

エジプトの現地製薬会社（現 大塚エル・オブル製薬ジプト株式会社）を子会社化

エジプトに大塚ジプト株式会社設立

2021年 ● 名称および一部の組成を
変更した新製品として、
濃厚流動食品
「ハイネックスイーゲル」
「ハイネックスイーゲル LC」
発売

エジプトに大塚ジプト株式会社設立

2022年 ● 間欠泌尿器用カテーテル「アクトリン」発売

● 咀嚼後の物性に配慮した咀嚼開始食品
「プロセスリード」発売

2015年 株式会社リリアム大塚設立

● 外皮用殺菌消毒剤「オラネジン消毒液 1.5%」
「オラネジン液 1.5% 消毒用アブリケータ
10mL・25mL」発売

● 在宅療養者の食・栄養課題の抽出・解決を支援する
クラウドサービス「ぱけにゅー（Pocket Nutrition）」
提供開始

● 経口補水液オーエスワン シリーズ
に、「オーエスワン アップル風味」
追加発売

2017年 ● 高カロリー輸液用 糖・電解質・アミノ酸・
総合ビタミン・微量元素液「エルネオバ
NF1号・2号輸液」発売

● 濃厚流動食品「ハイネゼリー」「ハイネゼリーアクア」
消費者庁許可 特別用途食品 総合栄養食品（病者用）
「亜鉛調整」の表示許可取得

● 胃炎・胃潰瘍治療剤「レバミビド錠 100mg「オーツカ」」発売

● カラダづくりサポート飲料「リハディス」発売

2019年 ● 経腸栄養剤（経口・経管両用）
「イノラス配合経腸用液」発売

● 経鼻胃管先端位置確認システム
「タムガイド」を構成する医療
機器として、「タムガイド光源
装置」「タムガイドファイバー」
を発売

2020年 高木修一、代表取締役社長に就任

大塚クリニカルソリューションズ
株式会社設立

● 組成および物性を改良した新製品として、
濃厚流動食品「ハイネックスゼリー」
を発売

● 栄養投与量を見える化し、医療関係者の栄養管理業
務を支援するアプリケーション「にゅーたる」配信
開始

● 慢性腎不全高カロリー輸液用アミノ酸・
糖・電解質・総合ビタミン液
「キドバレン輸液」発売

私たちは、 脱水症で亡くなる人を ゼロにしたい。



脱水症。人は、水が足りないと病気になる。
体の中には、Na⁺やK⁺などの電解質を含んだ
細胞や血液で働く大切な水があるからです。

私たちは長い間、体の中の水を見つめ、
脱水症とたかうための製品、
輸液やOS-Iを提供してきました。

しかし、脱水や経口補水液という言葉が広まっても
重症化してしまう人がいる。命を落とす人がいる。
もっと、医療や介護に携わる方々の力になれるように。

わたしたちの使命。脱水症を正しく伝えること。
輸液療法と経口補水療法に適切な製品を
提供しつづけること、絶やさないこと。

体の中の水を守る。大塚製薬工場



株式会社大塚製薬工場

